

Przewoźny, M. 2019. Catalogue of palearctic Hydrophiloidea (Coleoptera). Internet version 2019-01-01. http://www.waterbeetles.eu/documents/PAL_CAT_Hydrophiloidea_2019.pdf.

佐藤正孝・吉富博之, 2018. コウチュウ目. Pp. 707-790. 川合禎次・谷田一三(編) 日本産水生昆虫第二版, 1520 pp. 東海大学出版部, 平塚.

- (嶋本習介 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(長野宏紀 590-0117 堺市南区高倉台)

【短報】沖縄島北部におけるオキナワクビマルキコメツキの観察例

オキナワクビマルキコメツキ *Hemiops ireii* Ôhira & Makihara は 2002 年に沖縄県国頭村の天然林に設置されたマレーゼトラップで捕獲された 3 匹に基づいて 2007 年に新種記載されたコメツキムシである。クビマルキコメツキ属 *Hemiops* は中国南部から東南アジアにかけて広く分布する属であるが, Ôhira & Makihara (2007) と大平・楨原 (2008) は日本未記録属の種として分布上きわめて興味ある発見と記述している。また体長 11~12 mm と比較的大型の未知属の種がそれまで未発見であったのは, 発生期が 10 月~11 月と本科として異例に遅いことにも言及している。筆者の一人である松村は以前より本科に興味を持っていたこと, 台湾では同属の種を得ていたことなどから 10 数年前より秋期に国頭村にて採集を試みたが得ることはできなかった。大平・楨原 (2008) では原記載以降も追加があったとのことであるが近年の記録はない。

2019 年 12 月末に名護市在住の藤川浩明氏より, 服部の SNS にそれらしき種がアップロードされているとの情報が松村に入った。松村と服部は沖縄昆虫同好会に所属し面識もあったので連絡をとりあい, 本種に間違いのないことを確認したので報告する。

以降, 服部の観察記録を報告する。1 頭目は 2019 年 11 月 24 日蛾の調査のため設置したライトトラップに飛来した (図 1)。2 頭目は同年 12 月 1 日夜間に岩の上に静止しているのが観察された (図 2)。いずれも観察のみなので正確には計測できていないが, 1 頭目はライトトラップ幕として使用した網戸の目と比較して体長約 12.3 mm と考えられる。また, 2 頭の観察例から推測すると, 夜間活動性が強く走光性があることが確認された。原記載の個体は 10 月 25 日~11 月 7 日の間に捕獲されたと記述されてい



図 1. ライトトラップに飛来したオキナワクビマルキコメツキ.



図 2. 夜間岩上に静止中の本種 (服部撮影).

るが, 今回 12 月 1 日に観察されたことから成虫は 10 月末~12 月初旬まで活動するものと考えられる。

なお, 服部は本観察例を iNaturalist にアップロードしている。

末筆ながら, 本種についての情報提供をいただいた藤川浩明氏, また本報告を勧めていただいた有本久之氏と吉富博之博士に厚く御礼申し上げます。

引用文献

大平仁夫, 楨原 寛, 2008. 日本未記録の *Hemiops* 属の新種が沖縄本島から記録. 甲虫ニュース, (162) : 29-30.

Ôhira, H. & H. Makihara, 2007. A new *Hemiops*, genus new to Japan, species of Elateridae (Coleoptera) from Okinawa Island of the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of FFPRI, 6 (4) : 227-230.

(松村雅史 901-1303 島尻郡与那原町与那原 3219-9)

(服部貴昭 905-1421 国頭郡国頭村辺戸 103)

【短報】西表島からのヒメイカリゾウムシの記録と擬死行動

ヒメイカリゾウムシ *Euthycus inaequalicollis* Morimoto,



Figs. 1-4. Habitat and adults of *Euthycus inaequalicollis*. 1. Habitat (Ôtomi-rindô, Iriomote-jima Is.) ; 2. Adults, paired on leaf of *Thelypteris acuminata* at night; 3. Adult, resting on ground at daytime; 4. Ditto, exhibiting thanatosis on collecting net at night.

1982 (ゾウムシ科アナアキゾウムシ亜科)は、比較的最近まで生態があまり知られていない珍種のゾウムシであったが、近年、成虫がヒメシダ科のホシダ *Thelypteris acuminata* を利用していることに加え、夜行性で、日中は地表付近の落葉下や地中に潜んでいる可能性が示唆された(吉武, 2016)。また、本種はこれまで沖縄本島、石垣島、与那国島、および台湾に分布することが知られている(東, 2002)。

筆者らは、西表島の大富林道において、まとまった数の本種成虫を確認しているため、同島初記録としてここに報告する。なお、標本は関東が保管する。

成虫目撃, 大富林道, 5. IX. 2019, 吉武・小島目撃; 41 exs., 28. X. 2019, 関東採集・保管; 成虫多数目撃, 4-8. XII. 2019, 小島目撃 (Figs. 1-4)。

西表島においても、夜間生息地では植物体上に見られるが、日中はスーピングを行っても得られる機会はほぼなく、シダの株元を丹念にかぎ分け、地上で擬死した状態である成虫を数個体確認した。本種が夜行性であることに加え、日中の生息場所を確認することができた。

また、本種成虫は刺激を受けると擬死行動をとるようで、スーピングをしたネット内でも、大半の個体が擬死状態でしばらくいることも確認できたの

で、合わせて報告する。

なお、本調査での昆虫捕獲は沖縄森林管理署の許可(30 沖管第 726 号)を得て実施した。また、本研究は東京農業大学戦略研究プロジェクト(代表: 小島弘昭)の研究助成を受けて行われた。

引用文献

- 東 清二 (監修), 2002. 増補改訂琉球列島産昆虫目録. xxiv + 570 pp. 沖縄生物学会, 沖縄県西原町.
吉武 啓, 2016. ヒメイカリゾウムシ成虫の活動習性について. さやばねニューシリーズ, (22): 45.

(小島弘昭 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学農学部昆虫学研究室)

(関東準之助 399-0101 富士見町境 7794-13-1)

(吉武 啓 901-0336 糸満市真壁 820)

(国研) 農研機構九州沖縄農業研究センター(糸満駐在))

【短報】屋久島におけるサカグチクチプトゾウムシの加害植物記録

サカグチクチプトゾウムシ *Oedophrys sakaguchii* (Kôno, 1930) は、ヒサカキ、ハマヒサカキなどのモツ